

第39回

“北方領土を考える”高校生弁論大会

第Ⅰ部

“北方領土を考える”高校生弁論発表

全道から応募し、事前審査を通過した12名の高校生が
“北方領土を考える”をテーマに高校生らしい弁論を発表します。

第Ⅱ部

元島民による講話

講師 北方領土の語り部 佐々木 タエ 氏

第Ⅲ部

審査講評・成績発表・表彰式

と き／令和7年1月18日(土)
12:30～16:30

ところ／札幌市男女共同参画センター ホール
(札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ3階)



色丹島 あなまわん
(穴瀬湾)

**明日を担う高校生の北方領土への想い、主張に耳をかたむけ、
皆さんも北方領土問題について考えましょう！**

主 催／公益社団法人北方領土復帰期成同盟

後 援／外務省 内閣府北方対策本部

北海道 北海道教育委員会 札幌市 札幌市教育委員会

北海道高等学校長協会 北海道高等学校文化連盟

独立行政法人北方領土問題対策協会 公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟

開 会 式

(12:30開会)

感謝状贈呈

長年応募いただいた学校に感謝状を贈呈します。

公益社団法人北方領土復帰期成同盟会長感謝状

武修館高等学校 様

市立札幌平岸高等学校 様

第 I 部 弁論発表

主題 ～北方領土について考える～

●審査員紹介

●弁論発表 9校 12名（発表は一人7分以内）

第 II 部 元島民による講話

講師：北方領土の語り部 佐々木 タエ 氏

第 III 部 表彰式

●審査講評

●成績発表

●表 彰 最優秀賞 1名 外務大臣賞

優秀賞 1名 北海道知事賞

優良賞 3名 北方領土復帰期成同盟会長賞

○最優秀賞及び優秀賞受賞者には副賞として「総理大臣表敬訪問」を実施します。

閉 会

(16:30予定)

「第39回『北方領土を考える』
高校生弁論大会」に対する
外務大臣メッセージ



外務大臣

岩屋 毅

「第39回“北方領土を考える”高校生弁論大会」の開催に当たり、北方領土問題に高い関心を持って本日の弁論大会に参加された高校生の皆さん、そして、日頃から若い世代への啓発活動に取り組まれている皆様に対し、心から感謝申し上げます。

北方領土問題は、日本がロシアとの間で抱える最大の懸案事項です。今年は戦後80年を迎えますが、今もなおこの問題が解決していないことを重く受け止めています。ロシアによるウクライナ侵略を受け、日露関係は引き続き厳しい状況にあります。政府として、四島の帰属の問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持していきます。

元島民の方々の平均年齢も89歳に達しました。このような状況において、特に未来ある若い世代の皆さんが中心となって、国民一人一人が北方領土問題についての理解を深め、その解決の重要性を広く訴えることがますます重要になっています。

今日この大会に参加されている高校生の皆さんは、元島民一世を始めとする世代の方々の体験や取組について見聞きし、日本や世界の歴史を学び、日露関係や北方領土問題について様々なことを考えてこられたと思います。是非、若者ならではの自由な発想で、御自身の中に培われてきた考えを力強く訴えていただきたいと思います。この弁論大会が、全ての国民が北方領土問題について改めて深く考えるきっかけとなることを期待します。

本日御出場される皆さんの御健闘と弁論大会の御成功を心からお祈り申し上げます。

「第39回『北方領土を考える』
高校生弁論大会」に対する
知事メッセージ



北海道知事

鈴木直道

「第39回“北方領土を考える”高校生弁論大会」に、多くの皆様のご参加をいただき、心から感謝申し上げますとともに、本大会の開催に多大なるご尽力をいただいた公益社団法人北方領土復帰期成同盟をはじめ、関係の皆様には厚くお礼申し上げます。

戦後79年を経て、元島民の方々の平均年齢は89歳となり、一刻の猶予も許されない中、今なお北方領土問題は未解決のままであり、日本とロシアの間では平和条約が締結されていません。

ロシアによるウクライナ侵略は未だ収束せず、日露関係は依然として厳しい状況が続いていますが、こうした状況にあるからこそ、返還要求運動の歩みを止めることなく、政府の外交交渉を後押ししていかなければなりません。

今後とも粘り強く返還要求運動を展開していくためには、次代を担う皆さんに参加していただき、活動を継承していくことが大変重要です。道としても、「北方領土サポーター」制度やSNSを通じた情報発信など、若い世代の関心を高める取組を進めており、この大会に向け、北方領土問題について多くのことを学び、理解を深めてこられた皆さんのことを、大変頼もしく思います。

弁士の皆さんが、返還実現に向けた思いや自分たちができる返還要求運動についての考えを、堂々と発表され、その思いが、全国の若い世代をはじめ多くの方々に広がっていくことを心から願っています。

「第39回 北方領土を考える」
高校生弁論大会」における
教育長の激励メッセージ



北海道教育委員会
教育長

中 島 俊 明

“北方領土を考える” 高校生弁論大会が沢山の高校生の参加の下、多くの関係者の御協力により開催されますことに、心から感謝申し上げます。

昭和61年に始まり、今年で39年目を迎えますが、これまで、皆さんの先輩が素晴らしい発表を行い、北方領土の早期返還を強く願う元島民の方々をはじめとする地域の皆様、道民、そして国民の方々に、大きな勇気と希望を与えてきました。

さて、故郷である北方領土を追われた元島民の平均年齢が89歳を超える中、北海道や元島民だけではなく、次代を担う若い世代が北方領土問題に関心をもてるようにするなど、北方領土の早期返還の実現に向けて、これまで以上に政府と国民が一丸となることが求められています。国では、「日ソ共同宣言」による旧ソ連との国交回復以降、ロシアとの間で署名された「東京宣言」や、「日露行動計画」の採択など、北方領土の帰属の問題を解決して平和条約を締結するという基本方針のもと、粘り強く外交交渉を進めておりますが、昨今のウクライナ情勢への対応から、平和条約に関する交渉が中断されているところであります。

このような先行きが見通せない状況にあっても、皆さんのような若い方々が、本大会への参加を通して、領土問題を抱える日本とロシアの関係の在り方について深く考え、日本とロシア両国民の相互理解を深めつつ、返還運動の輪を一層広げ、領土問題を解決していこうとすることは、国際平和の維持と領土問題の平和的な解決のために、大変意義深いことであると考えております。

昨年の大会における生徒の弁論では、北方領土問題の解決には、日本国民が当事者意識をもつことが必要であり、そのために北方領土問題について、日本全国にポスターなどで発信するという提案や、フランスやドイツなど、他国の例を挙げて日本とロシアの共存の方法を探る提案、若い世代に北方領土の問題の理解を浸透させるためのショート動画の作成・配信など、未来を見据えた、北方領土問題の解決に向けた具体的な内容が数多く発表されました。

今回、皆さんは、北方領土に関する多くの資料を調べたり、様々な方々からお話を伺ったりするなどして、北方領土問題の歴史的背景や領土に関する国際法の意義などについて理解を深め、この問題がいかに身近であり、かつ、日本にとって大切な問題であるかに気付いたことと思います。

次代を担う皆さんの若さと熱意あふれる素晴らしい発表が、多くの人々の共感を得て、北方領土返還運動の輪がさらに広がり、一日も早く北方領土の返還が実現されることを心から願うとともに、皆さんがこれまでの努力の成果を存分に発揮されることを期待して、激励の言葉といたします。

第39回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会

発表者名簿

(発表順)

基準 弁論	中 村 心 杏	1年生	札幌日本大学高等学校
1	藤 井 藍 丸	2年生	北海道厚岸翔洋高等学校
2	橋爪 駿一郎	2年生	札幌日本大学高等学校
3	北 島 凜 音	1年生	北海道別海高等学校
4	土 田 彩 月	2年生	武修館高等学校
5	山 本 晃 聖	1年生	北海道別海高等学校
6	芳 賀 尋 子	2年生	旭川藤星高等学校
7	三 浦 かんな	1年生	北海道札幌国際情報高等学校
8	落 合 楓 花	2年生	北星学園女子高等学校
9	類 瀬 智 人	2年次	北海道根室高等学校
10	齋 藤 葵	1年生	札幌日本大学高等学校
11	西 出 愛 莉	1年生	市立札幌平岸高等学校
12	工 藤 叶 愛	2年生	武修館高等学校

第39回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会

審査員名簿

(五十音順)

井 潤 裕 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
共同研究員

北岸 由利子 北海道女性団体連絡協議会 監事

柴 田 亨 北海道教育庁 教育指導監

竹 越 広 志 北海道高等学校文化連盟 弁論専門部長
(北海学園札幌高等学校長)

土 橋 隼 外務省欧州局ロシア課 課長補佐

中 島 竜 雄 北海道総務部北方領土対策本部 北方領土対策局長

西 依 一 憲 北海道新聞社編集局報道センター 副センター長

毎年2月7日は『北方領土の日』です



北方領土問題に対する国民の関心と理解をさらに深めるために、政府は昭和56年1月6日閣議了解により、毎年2月7日を「北方領土の日」とすることを決めました。

2月7日は、安政元年（1855年）伊豆下田において日魯通好条約が調印された日で、平和的な話し合いによって、両国の国境を択捉島とウルップ島との間に定められました。

この歴史的な意義から「北方領土の日」として最もふさわしい日とされたのです。

『北方領土の日』前後には、国民世論を盛り上げる各種の行事が全国各地において開催されています。ぜひ、ご参加・ご支援をお願いします。

北方領土返還要求署名活動

令和7年2月4日（火）～令和7年2月11日（火）
2025さっぽろ雪まつり（第75回）大通会場6丁目
（特設コーナー）

2025北方領土フェスティバル

令和7年2月7日（金）12時～13時
2025さっぽろ雪まつり（第75回）大通会場5丁目
（道新 雪の広場）